

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 24 章 1～14 節>

終末について語る箇所。しかし、そこから本当に聞き取るべきことは何か？

### ①なぜ弟子たちは神殿の建物を指さしたのか？

神殿を出たイエス様は、弟子たちが神殿の建物を指さしたとあります(1)。なぜでしょうか？ この時の神殿はヘロデ大王が増改築した壮麗なものでした。弟子たちはそれを見て感動したのです。しかし忘れてはなりません。この直前にイエス様は律法学者たちの信仰への裁きを宣言されました。それで、ただ見た目だけで判断しないようにという指摘以上に、この後起こることの予告を込めて、その壮麗な神殿の崩壊を告げられたのです(2)。

### ②終末を自分勝手に考えない。聖書の終末は私たちの救いにつながるもの！

弟子たちはこの神殿崩壊の予告に驚き、てっきりそれは世の終わり、つまり終末のことを言われているのだと思い、「それはいつ起こるのですか、どんな徴がありますか」とイエス様に問いかけたのです(3)。その後、イエス様が語られた具体的な内容が続きます(4～14)。この2千年間、「今がその時だ。なぜなら、ここに記された通りのことが起こっているから」と思って慌てる人々が大勢ありました。それは違っていたのです。いつか、その時は来るでしょう。しかし、この箇所が一番言おうとしていること、私たちが聞き取らなければならぬことは何でしょうか？ 「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる」(13)、「そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る」(14)が大事です。「御国のこの福音 (good news)」と言われており、「終わりの来る前に、それが全世界に宣べ伝えられる」と言われているのです！ 聖書は確かに世界の終末について語っています。しかし、そこで聖書が語っていることは「救われる」(13)につながる「福音 (good news)の宣教がなされる」(14)ことなのです。よって、終末は喜びこそ関係あるものなのです！

### ③終末、それはイエス・キリストの死と復活の時以来、始まっている！

終末は、聖書を正しく理解した場合、いつ来るのでしょうか？ 世界の公同のキリスト教会は、イエス・キリストが到来した時、そこから終末の時が始まっていると理解しています。なぜなら、主の十字架の死と復活によって、「福音」(14)が説かれ、「救い」(13)の中に私たちは入れられたからです！ 「救われた」は「苦難が無い」と同義ではありません。私たちの救いのための主の苦難に連帯することは、勝利が待つ主の戦いに参与させていただける栄光ある苦難なのです！